

5 がん

小平町の現状

2000年～2009年のSMR悪性新生物全体では男性が104.1ですが男女合計では99.1となっています。

大腸がんは男女ともに高く、人数も多くなっています。男女ともに肝がんが低目です。また、男性の胃がん、女性の肺がんも低目になっています。

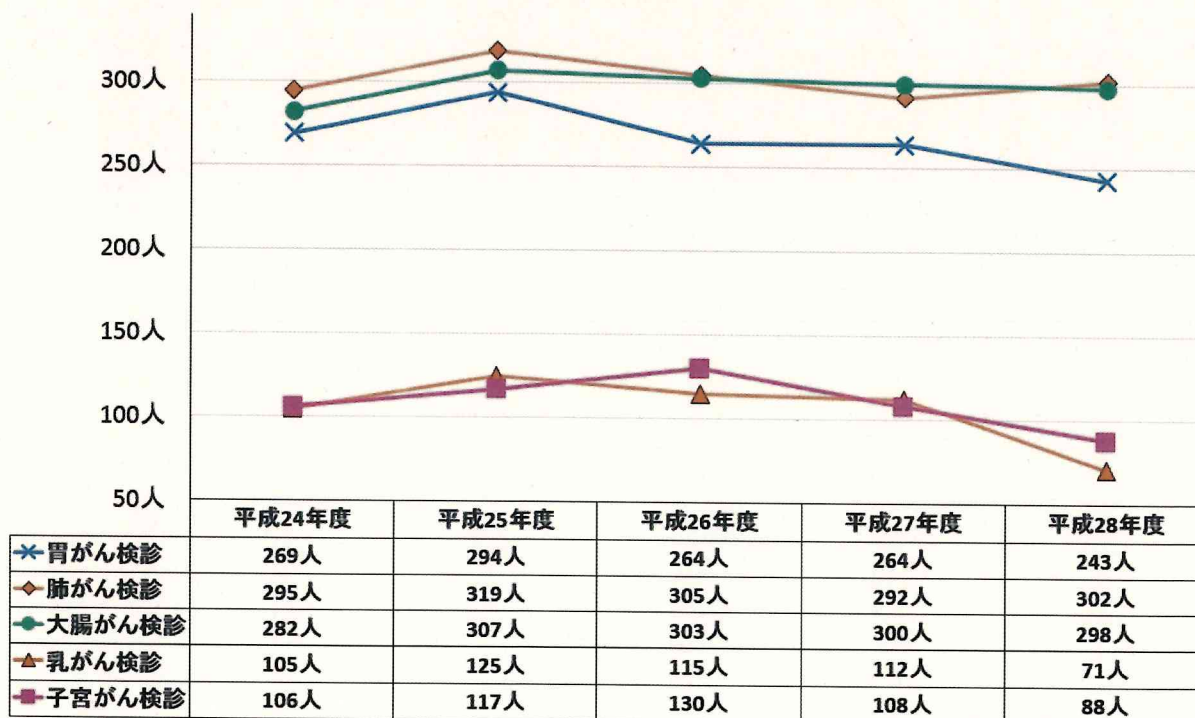
死因名称	男性死亡数	SMR	女性死亡数	SMR	男女死亡数	SMR	
悪性新生物	112人	104.1	57人	90.6	169人	99.1	
再掲	胃がん	11人	60.3	9人	102.9	20人	74.2
	肺がん	30人	119.2	2人	24.0	32人	95.5
	大腸がん	17人	142.5	12人	131.9	29人	137.9
	食道がん	3人	61.9	1人	118.4	4人	70.3
	肝がん	11人	91.2	4人	71.6	15人	85.0
	膵がん	9人	138.9	6人	112.8	15人	127.1
	胆嚢がん	6人	132.9	3人	66.5	9人	99.7
	乳がん	-	-	5人	108.6	5人	108.6
	子宮がん	-	-	1人	40.1	1人	40.1

資料：北海道健康づくり財団HP

※2000-2009年データ

がん検診受診者の推移では胃がんは微減、肺がん、大腸がんは横ばい、子宮がん、乳がんは減少傾向がうかがえます。

がん検診受診者数の推移

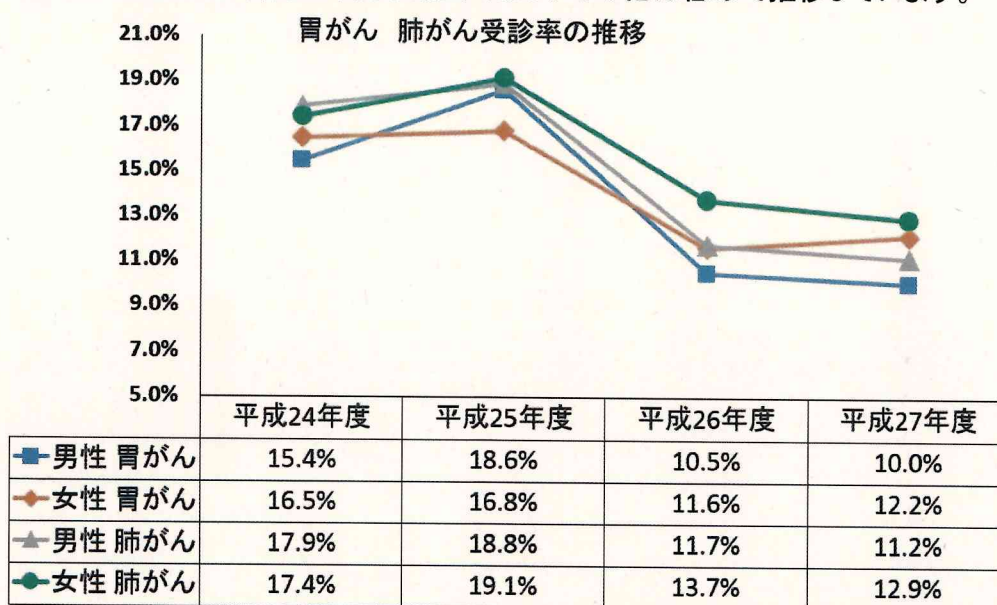


受診率は対象者が変動に伴い多少の高低が見られます。

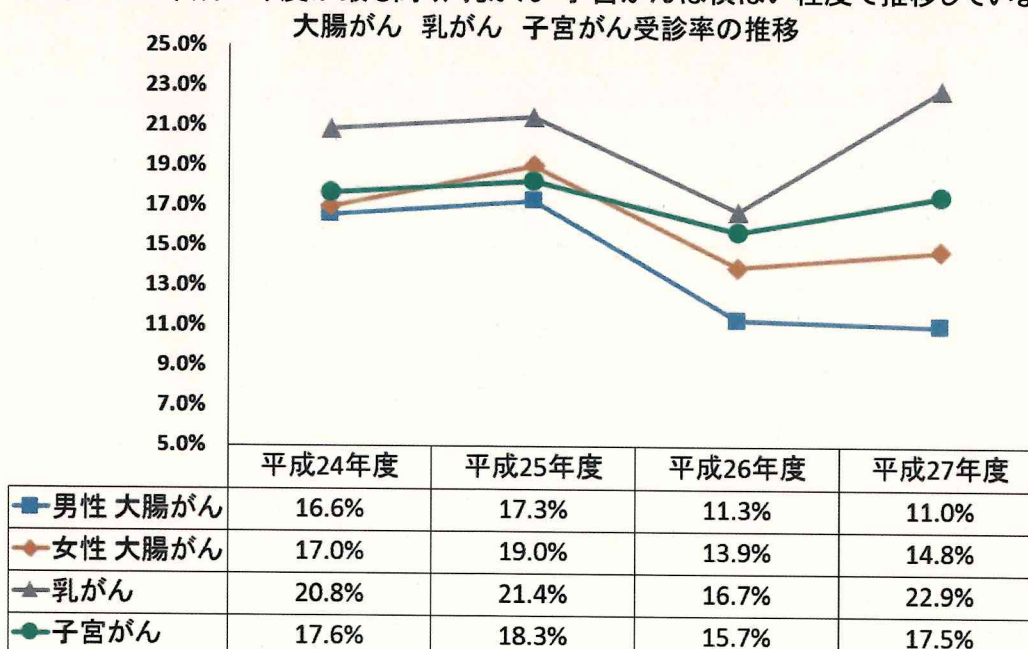
	平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	対象者	受診率	対象者	受診率	対象者	受診率	対象者	受診率
胃がん 男	694人	15.4%	695人	18.6%	1099人	10.5%	708人	10.0%
胃がん 女	984人	16.5%	984人	16.8%	1285人	11.6%	691人	12.2%
肺がん 男	694人	17.9%	695人	18.8%	1099人	11.7%	708人	11.2%
肺がん 女	984人	17.4%	984人	19.1%	1285人	13.7%	691人	12.9%
大腸がん 男	694人	16.6%	695人	17.3%	1099人	11.3%	708人	11.0%
大腸がん 女	984人	17.0%	984人	19.0%	1285人	13.9%	691人	14.8%
乳がん	984人	20.8%	984人	21.4%	1285人	16.7%	691人	22.9%
子宮がん	1122人	17.6%	1122人	18.3%	1547人	15.7%	944人	17.5%

※平成26年度は健康増進事業報告上対象者数が増えています。

胃がん・肺がんは平成25年度が最高であり、その後は低めで推移しています。



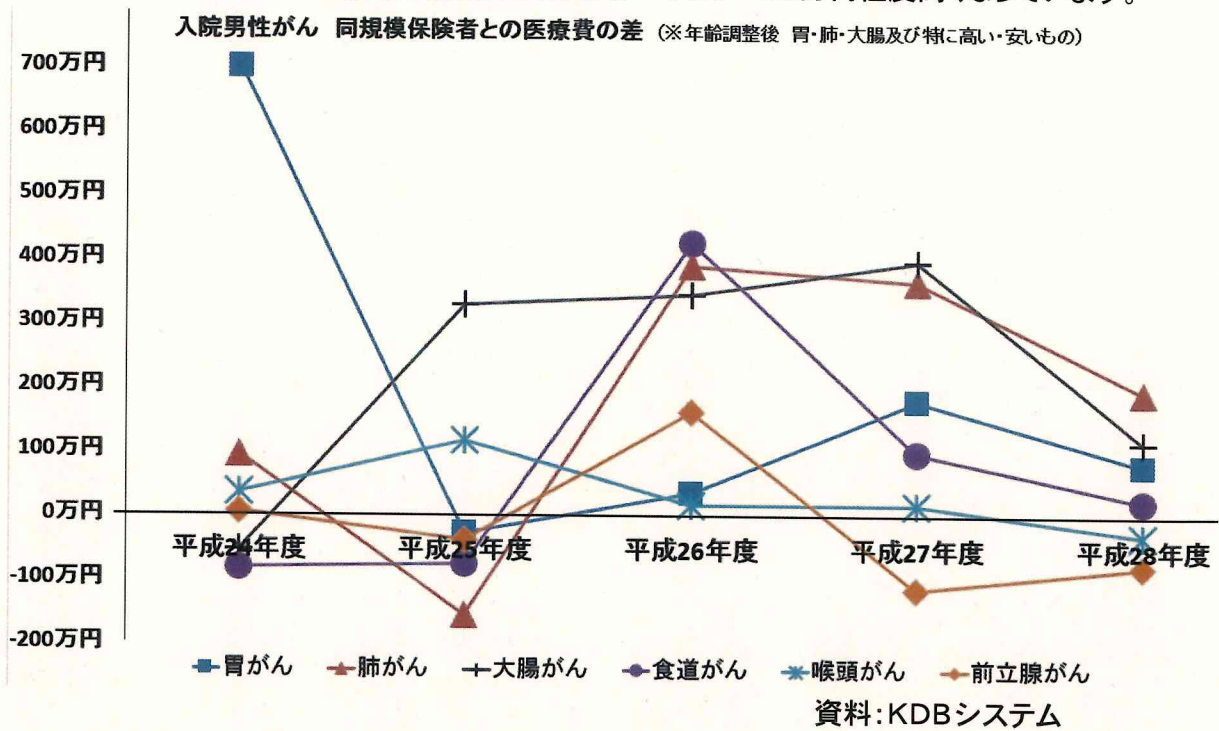
大腸がんは平成25年度が最も高く、乳がん・子宮がんは横ばい程度で推移しています。



資料：健康増進事業報告

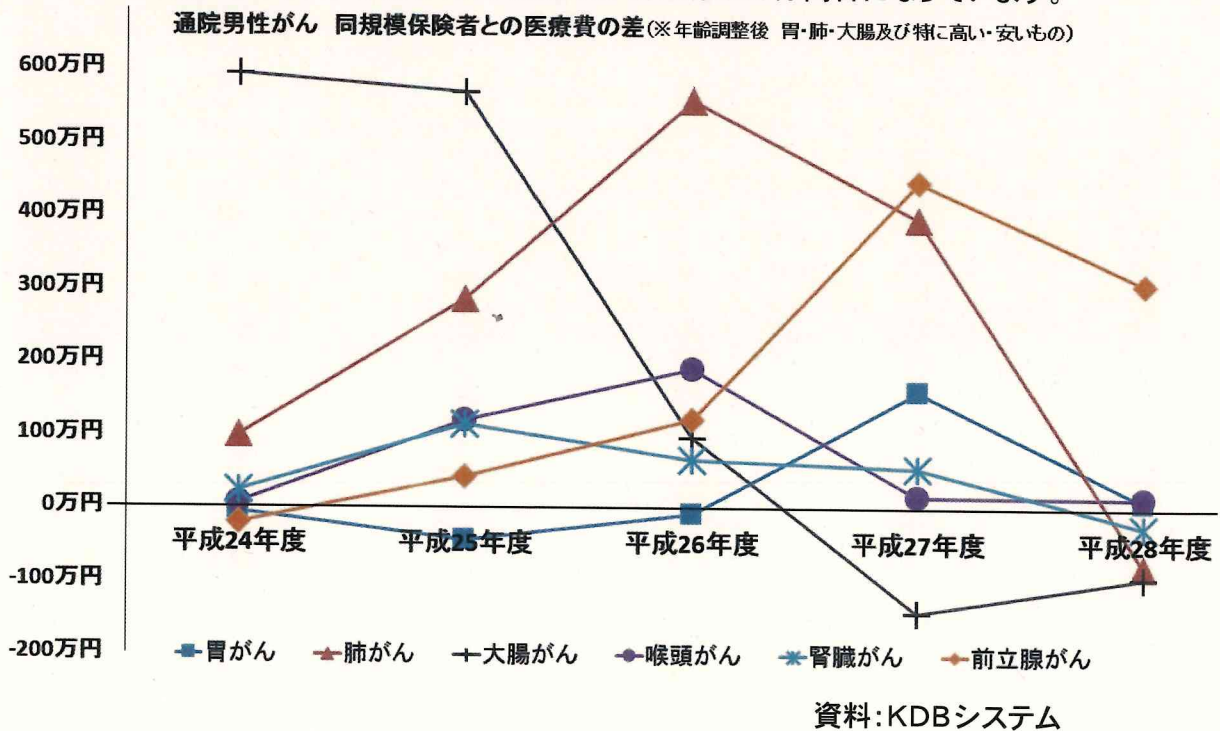
入院男性のがんに要する医療費は同規模の保険者と比べて全体的に安くなってきていますが、前立腺がん以外のがんで全体的に高目で推移しています。

また、それぞれの金額も同規模保険者と比べて200～400万円程度高くなっています。

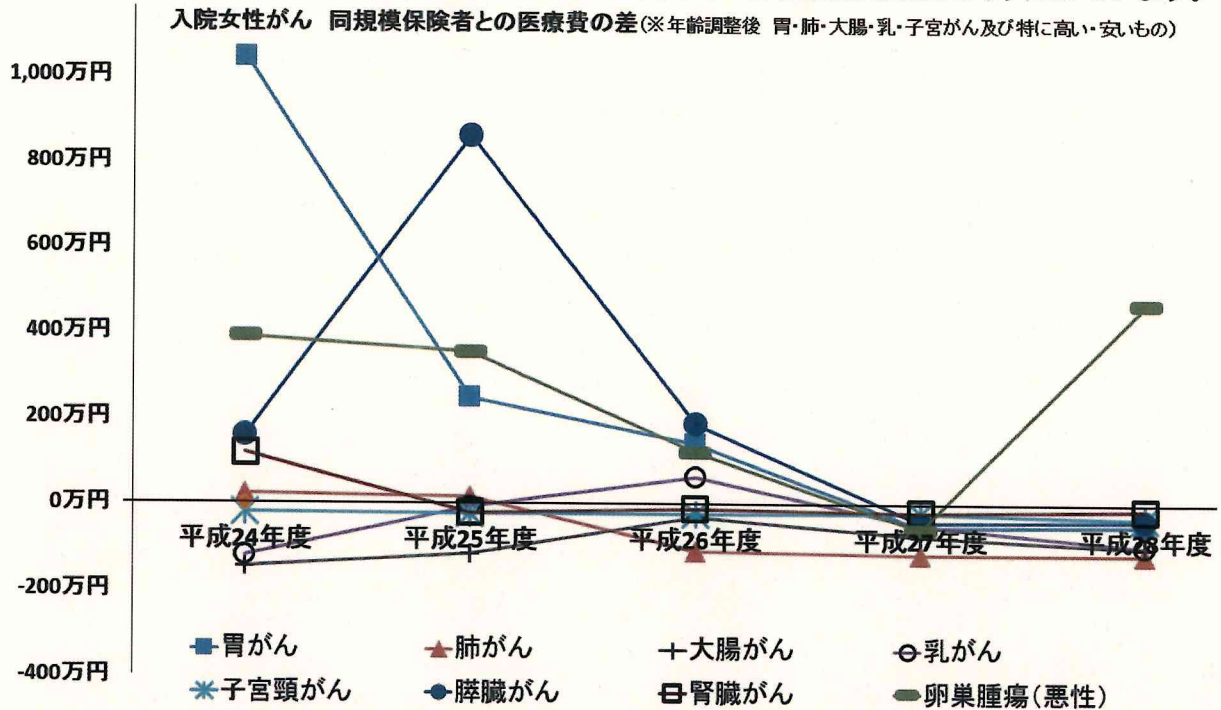


通院男性のがんに要する医療費は同規模の保険者と比べて全体的に安くなってきています。

また、偏りはありますが肺がん、大腸がん、前立腺がんは高目になっています。

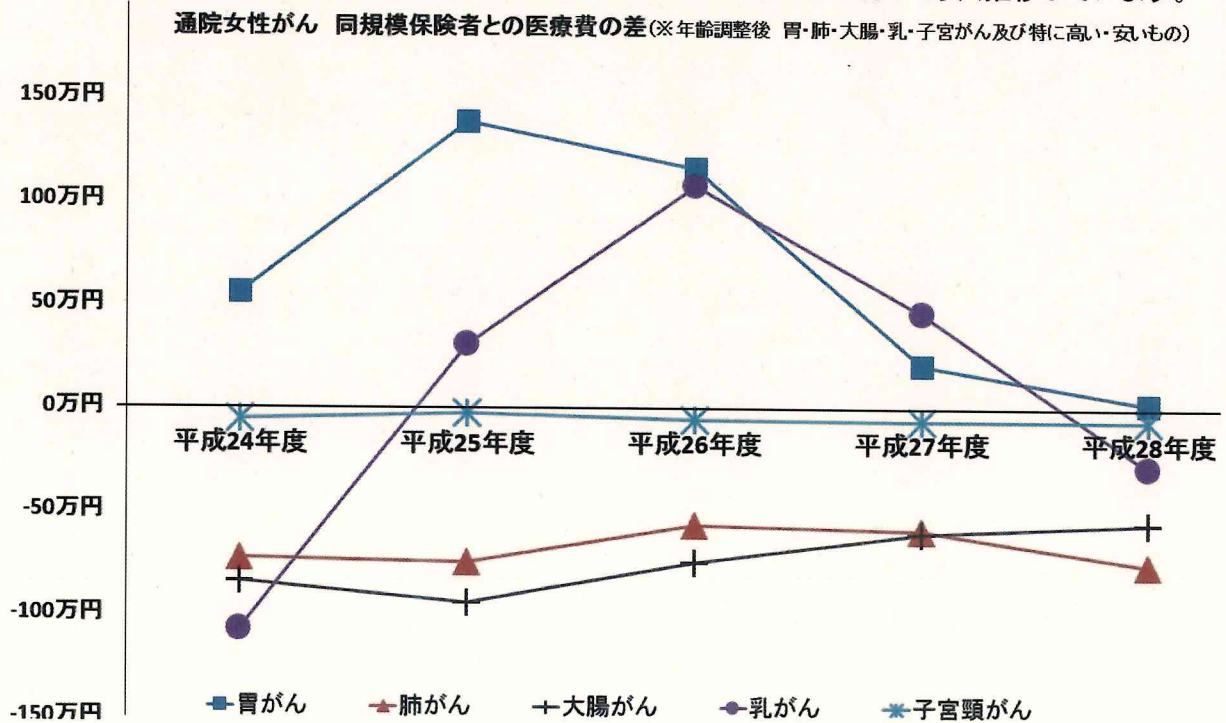


入院女性のがんに要する医療費は同規模の保険者と比べて全体的に安くなってきています。
 平成24～25年度は胃がん、膵臓がんが高く、散発的に卵巣腫瘍(悪性)が高くなっています。



資料:KDBシステム

通院女性のがんに要する医療費は同規模の保険者と比べて全体的に安くなってきています。
 平成25～26年度は胃がん、乳がんが高く、肺がん、大腸がんは総じて安く推移しています。



資料:KDBシステム

小平町の課題

- がんに必要な医療費は同規模の保険者と比べて男女とも全体的に安くなってきています。しかし男性が女性に比べ依然として高めで推移しています。
- 大腸がんは男女ともにSMRが高く、男性では医療費も高めです。女性は医療費は低いながらもSMRでの人数規模は比較的大きいことから、改善すべき課題と考えます。
- 肺がん男性ではSMRも入院・通院医療費も高めです。一方女性ではSMRも医療費も低めで推移しており、男女で異なった様子がうかがえます。

小平町の取組み

- 胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮がんは条件により無料でがん検診が受けられます。その他、前立腺がん検診、子宮超音波検査も受けられます。また、平成28年度からはピロリ菌検査も受けられるようにしています。
- 数々のがんを促進する喫煙について、町が実施する事業の会場にて、たばこの害や依存の仕組みなどの情報提供を実施し、禁煙をおすすめします。
- 評価指標としては早期発見・早期治療の要となる、がん検診受診者率を用います。
- 目標の値としては平成28年度よりも向上することを目指し、次のように設定します。

指 標	現在の値(平成27年度)	目標の値
男性 胃がん受診率	10.0%	15.0%
女性 胃がん受診率	12.2%	15.0%
男性 肺がん受診率	11.2%	15.0%
女性 肺がん受診率	12.9%	15.0%
男性 大腸がん受診率	11.0%	15.0%
女性 大腸がん受診率	14.8%	15.0%
乳がん受診率	22.9%	25.0%
子宮がん受診率	17.5%	20.0%

* 健康増進事業報告より

町民の皆様へのご提案

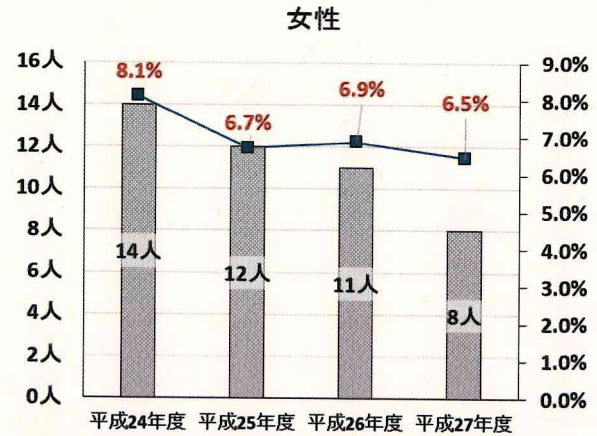
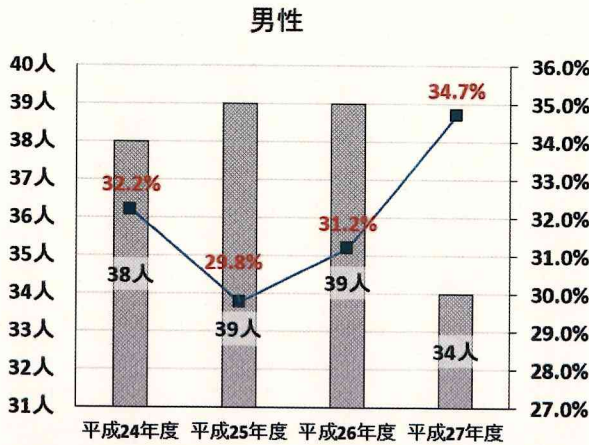
- がんの早期発見のためには、主治医の推奨するがん検診や町が実施するがん検診を活用しましょう。
- 男性の方は特に、自覚症状の有無によらず各種検診を利用しましょう。
- たばこは数々のがんを促進します。喫煙される方は、禁煙について検討しましょう。
- 可能な範囲で、分煙に積極的に取り組みましょう。

6 たばこ

小平町の現状

特定健診の問診にて喫煙中と回答した方の割合は全体的に他よりも高くなっています。

喫煙中と回答した人の状況



標準化比(間接法)

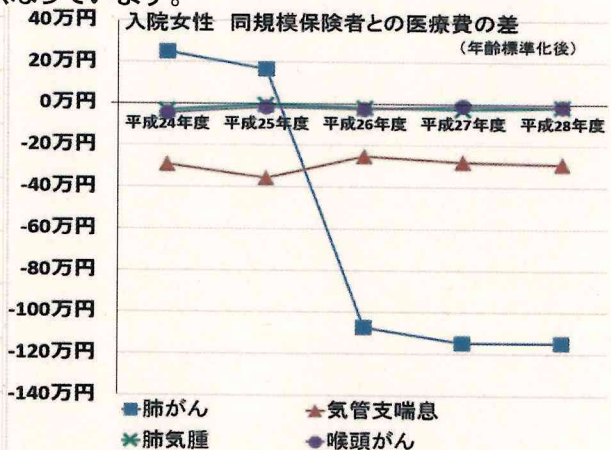
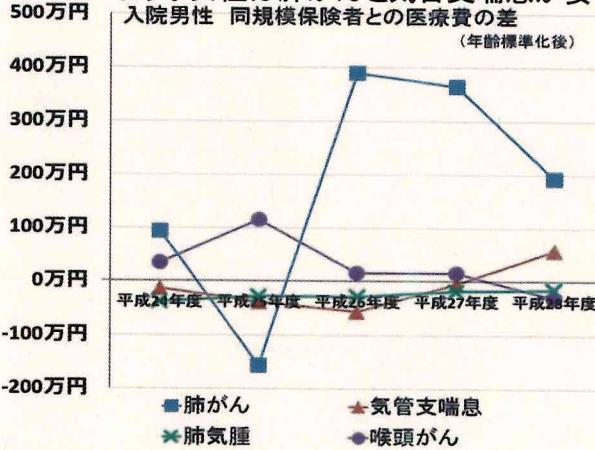
比較先	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
同規模	114.4	98.1	104.5	120.1
北海道	114.4	97.9	106.6	124.5
全国	123.7	106.9	114.1	133.4

標準化比(間接法)

比較先	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
同規模	153.3	111.9	109.9	112.2
北海道	93.1	69.7	69.2	66.3
全国	154.8	113.7	108.9	106.1

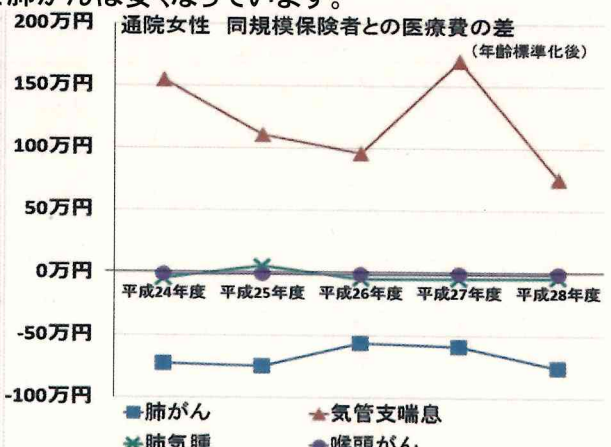
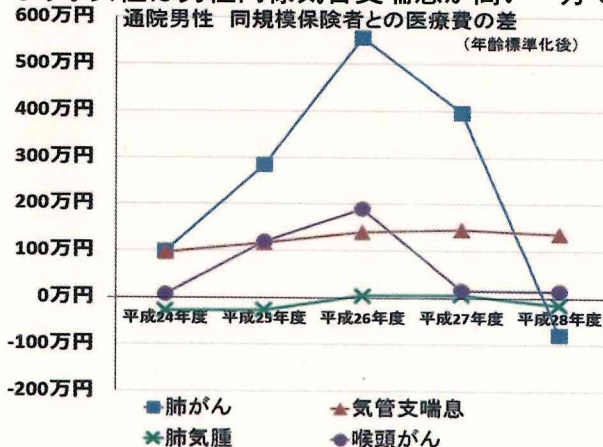
資料:KDBシステム

たばこ特に関連が強い疾患の入院医療費では、男性の肺がんが高く、喉頭がんもやや高くなっています。女性は肺がんと気管支喘息が安くなっています。



資料:KDBシステム

たばこ特に関連が強い疾患の通院医療費では、男性の肺がんと気管支喘息が高くなっています。女性は男性同様気管支喘息が高い一方で肺がんは安くなっています。



資料:KDBシステム

小平町の課題

- 小平町は同規模や国と比べて喫煙率が高くなっています。
- たばこと特に関連が強いがんでは、男性が入院、通院ともに高く女性は低くなっています。
- 男女ともに通院の気管支喘息が高く、「気管支喘息で入院するまでもないが、通院や処置のために通院での治療が必要」とった方が多いのではないかと考えられます。

小平町の取組み

- 町が実施する事業の会場にて、情報提供等により禁煙をおすすめします。
- たばこの害や依存の仕組みなど、正しい知識の普及に努めます。
- 効果的なたばこのやめ方をお伝えます。
- 喫煙者が禁煙をより身近なものとして捉え、禁煙を意識できるような指導展開に努めます。
- 町内公共施設での施設内禁煙や分煙の実施に努めてまいります。
- 評価指標としては年度による多少の偏りがありますが標準化比により他と比較可能な特定健診問診の回答状況を用います。

喫煙者自身だけではなく、周囲の方の健康のためにも喫煙率は低いほど望ましいです。一方で禁煙は情報、意志、治療が適切になり初めて成功するという難しさも秘めています。そのため、平成27年度に対して過去4年間平均から5ポイント程度改善した数値を目標とします。

指 標	現在の値(平成27年度)	目標の値
男性喫煙中 標準化比 (同規模保険者と比較)	120	105
女性喫煙中 標準化比 (同規模保険者とと比較)	112	110

*KDBより

町民の皆様へのご提案

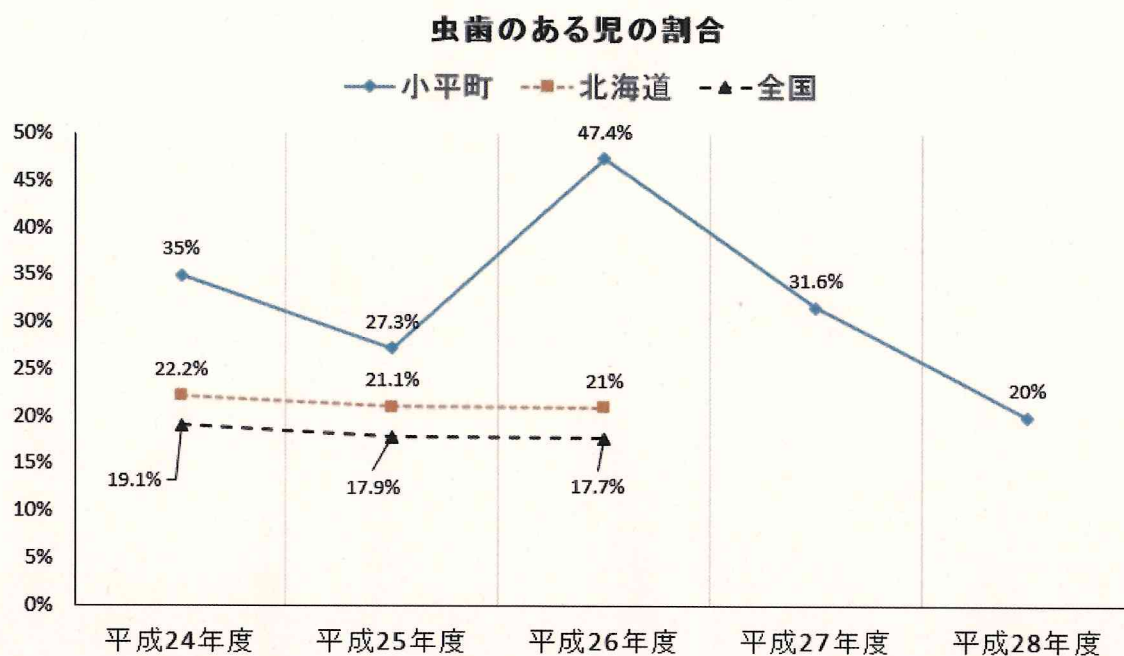
- 喫煙される方は、禁煙について検討しましょう。また、可能な範囲で分煙に取り組みましょう。
- 町の保健師による禁煙のためのサポートを利用しましょう。
- 喘息など呼吸器の持病がある方は、受動喫煙も含め、たばこには十分気をつけましょう。
- アレルギー体質の方や、生活や仕事場の塵や埃が多い方などは、清掃や換気、マスクを使用しましょう。
- 特に喫煙される方は、主治医への相談や町が実施するがん検診を利用しましょう。

7-1 歯の健康(乳幼児期～学齢期)

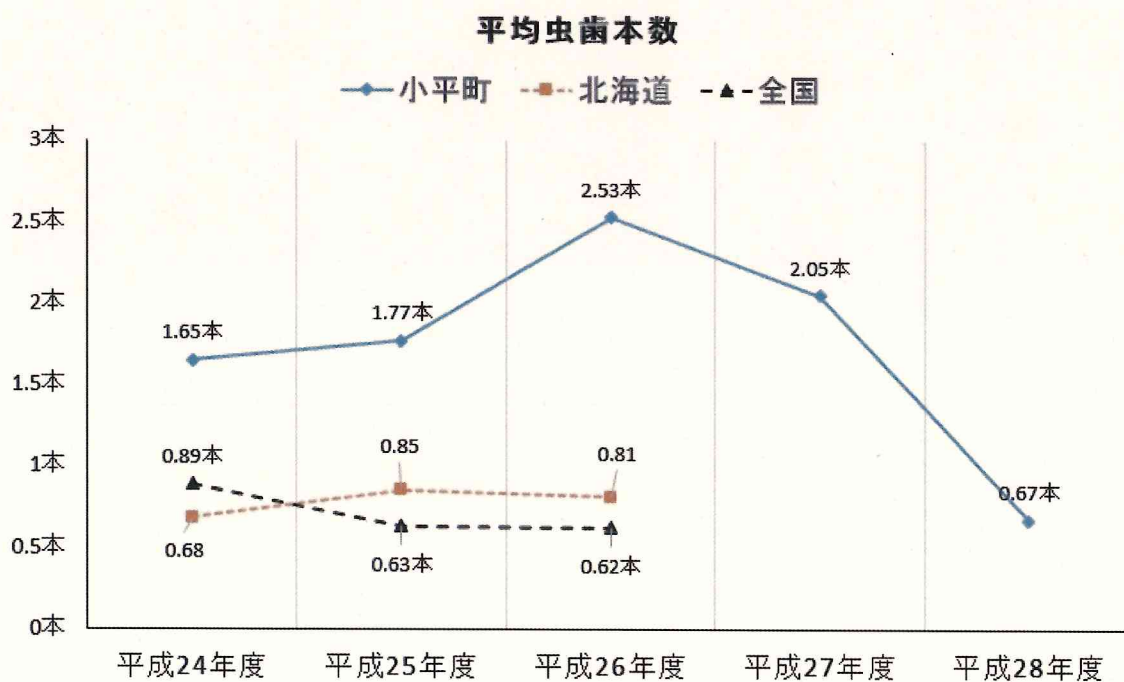
小平町の現状

【3歳児】

北海道、全国の統計と比較し、3歳児の虫歯のある児の割合、平均虫歯本数ともに高い状態にあります。減少傾向が見られます。



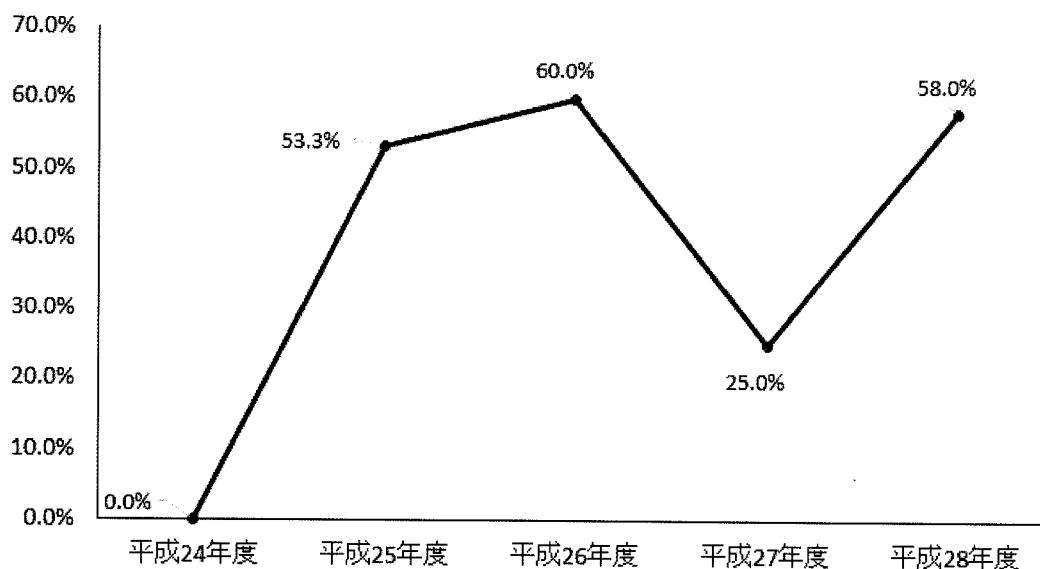
資料:小平町3歳児健診統計



資料:小平町3歳児健診統計

幼児健診アンケートの回答等から、水分補給の内容として甘味飲料を選択するご家庭が見受けられます。

甘味飲料を1日2回以上飲む児

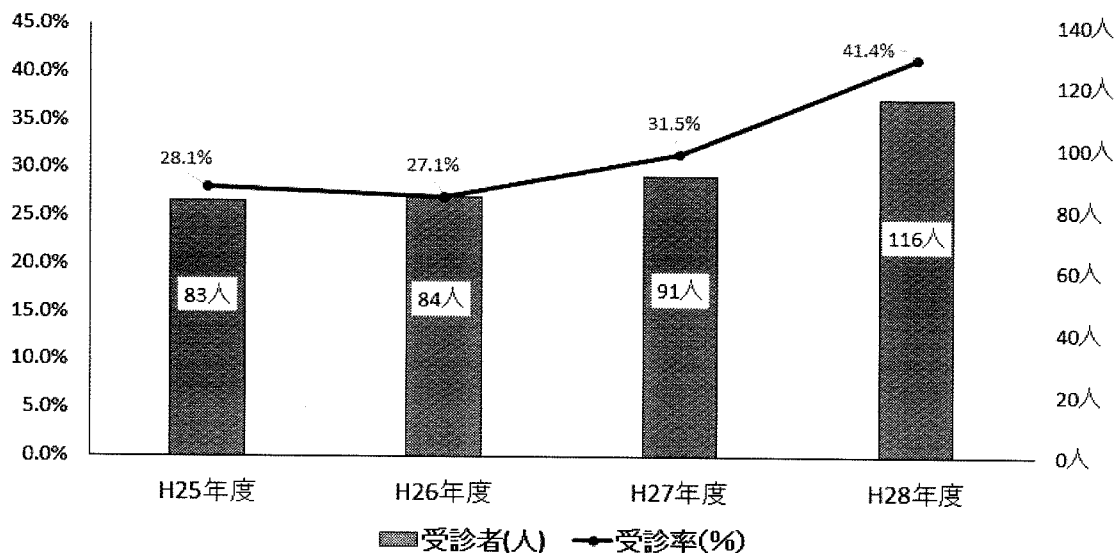


資料:小平町3歳児健診統計

【1歳6か月児～幼稚園年長児】

小平町で実施しているフッ素塗布の受診率は上昇傾向が見られ、乳児期のお子さんをご家庭での、関心の高さが伺えます。

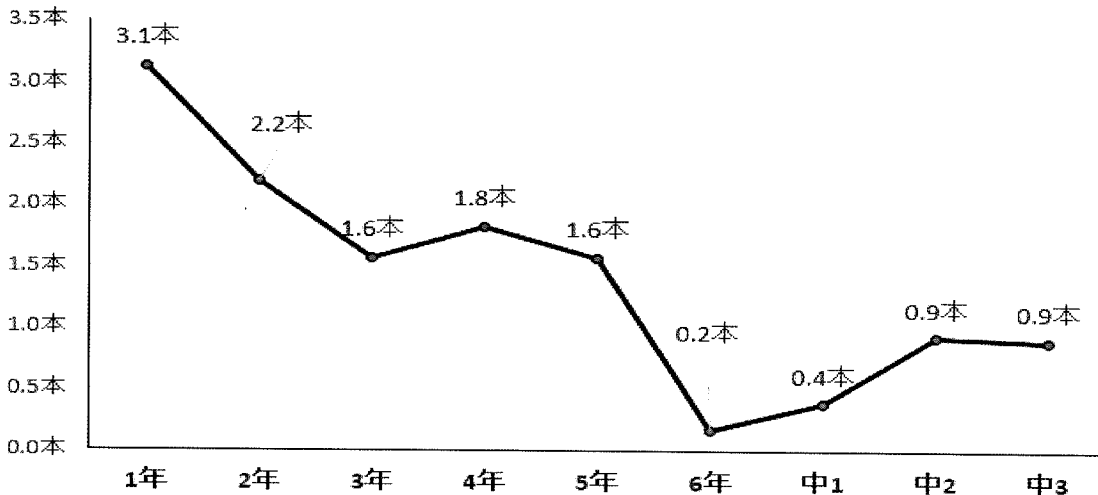
フッ素塗布受診率



資料:小平町フッ素塗布事業統計

【小学生、中学生】

小平町小中学生の平均虫歯本数(本)



資料：小平小学校、鬼鹿小学校、小平中学校 健康診断
※虫歯には、未処置の虫歯に加え治療済みや喪失した歯も含む。

小学校低学年のうちには虫歯の本数が多いものの、年齢が上がるにつれ減少傾向にあります。厚生労働省が推進する「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)」では、12歳時の平均虫歯本数目標値は1歯(本)以下とされています。

小平町ではこの目標値を下回っており、今後も維持することが望まれます。

小平町の課題

- 小平町3歳児の虫歯罹患率、虫歯本数は、全道、全国と比較し高い状態にあります。
- 1日2回以上、甘味飲料を摂取するご家庭が多く見受けられます。
- 12歳児の平均虫歯本数目標値1本以下を維持することが望まれます。
- 幼少時身に付けた歯みがきの習慣を、学齢期においても継続することが必要です。

小平町の取組み

- 小平町では年に3回(1・5・9月)、1歳6ヶ月～幼稚園年長児を対象として、フッ素塗布事業を行います。
- 幼稚園児を対象とした「みがきんこ教室(毎年6月ごろ実施)」「おやつ教室(毎年11月ごろ実施)」を開催し、正しいブラッシング方法や虫歯にならないおやつを選び方等をお知らせします。
- 甘味飲料と虫歯の関係についてなど、虫歯予防を目的とした情報提供や環境づくりを行い、罹患率の低下につなげます。

町民の皆さまへのご提案

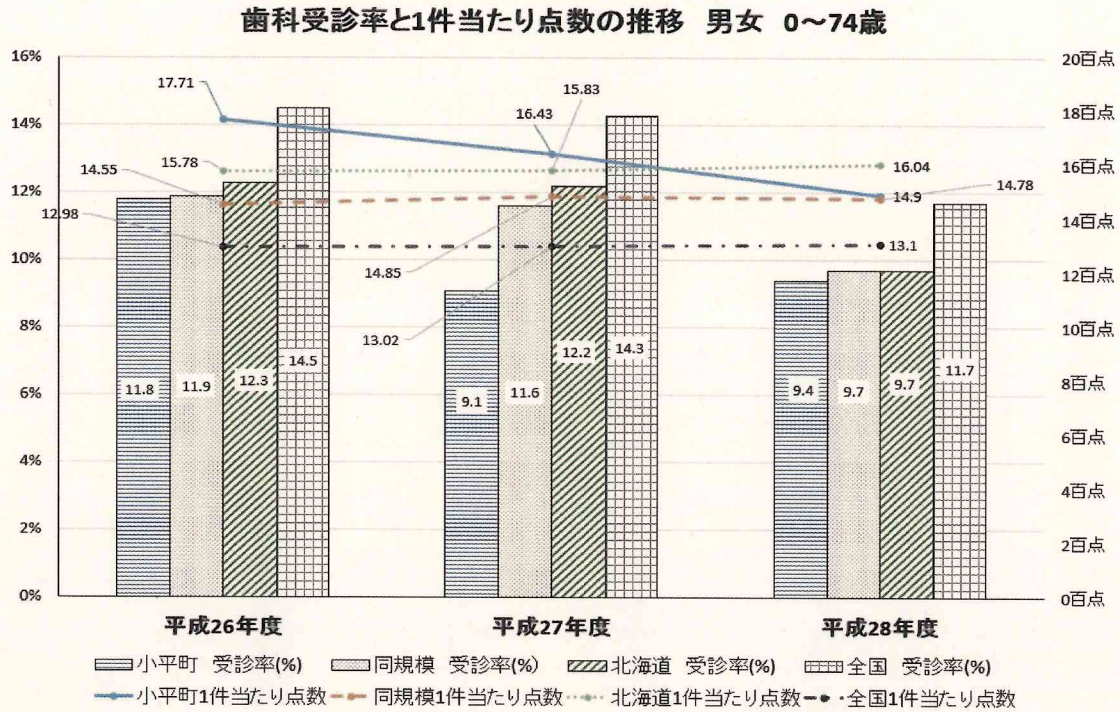
- フッ素は歯を強くして虫歯になりにくくする効果があります。より良い効果を得るため、生えたばかりの歯に塗ること、継続して塗ることをお勧めします。
- フッ素塗布は歯が生え始めていれば、対象年齢に達していなくても受けられます。虫歯予防のため活用しましょう。

7-2 歯の健康(成人期以降)

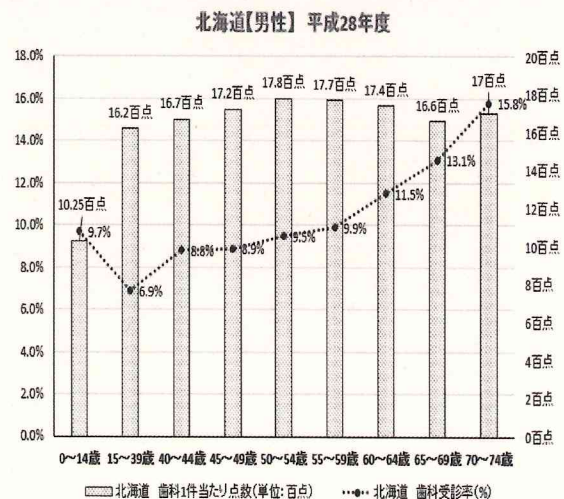
小平町の現状

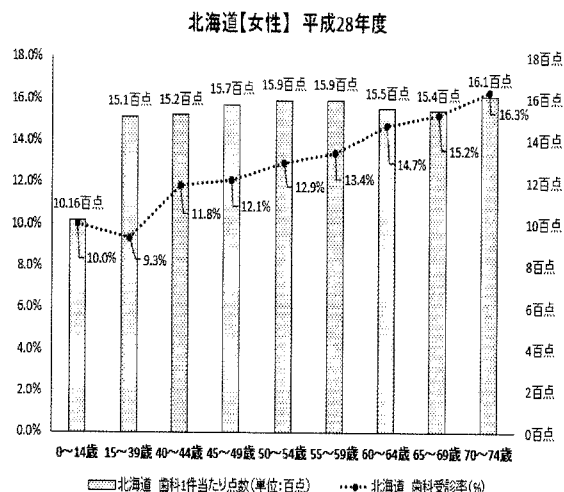
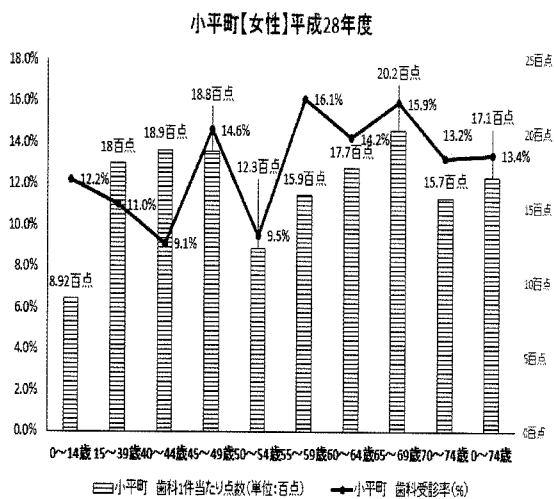
歯科受診率は、同規模市町村、北海道、全国との比較では低く、1件あたりの点数は、減少の傾向にあります。同規模市町村、全国との比較では高い現状です。

悪化してから治療していることが推察されます。



年代別受診率を見ると、受診率は低いものの、50~54歳の男性の1件当たり点数が高くなっています。症状が軽いうちに治療にとりかかれなかったため、医療費が高くなっていることが考えられます。





資料:KDBシステム

小平町の課題

定期健診や早めの受診を心がけ、口腔内の健康を維持することが必要です。

小平町の取り組み

- 小平町では20歳以上の町民を対象に、歯周疾患検診を引き続き行います。
- ライフステージごとの特性を踏まえ、虫歯予防、定期検診、早期治療などを推進し、口腔内の健康を保つことを目指します。
- 評価指標は、悪化する前の早めの受診という考えから、受診率は全国平均に近づくよう増加を目指し、1件当たり点数は全国平均に近づくよう減少を目指し、次の通りとします。

指標	現在の値(平成28年度)	目標の値
歯科受診率(0~74歳)	9.40%	12.0%
1件当たり点数(0~74歳)	14.9点	13点

* KDBシステムより

町民の皆様へのご提案

《虫歯予防の基本》

- 栄養バランスの取れた食事をとりましょう。
人間の歯や骨には、カルシウムやリンなどのミネラル成分が多く含まれています。ミネラル成分を豊富に含んだ食べ物(小魚類、レバー、海藻類、牛乳、卵、大豆、野菜、果物など)を意識してとるように、心がけましょう。
- よく噛むことも大切です。
食物をよく噛むことで、唾液がたくさん出ます。唾液にはカルシウムやリンが多く含まれているので、歯のエナメル質から溶け出したカルシウムやリンを補ってくれます。成長期には噛み応えのある固い食べ物をよく噛むことが、美しい歯並びを作るのにも役立ちます。
- プラークコントロールで虫歯菌を減らしましょう。
食後の歯磨きが正しく行われることで、虫歯菌のすみかになるプラークが取り除かれます。寝る前は必ず、できれば食前・食後にも歯磨きの習慣をもちましょう。